

更なる機能強化に係る状況 及び健康影響調査について

2020年3月27日
成田国際空港(株)

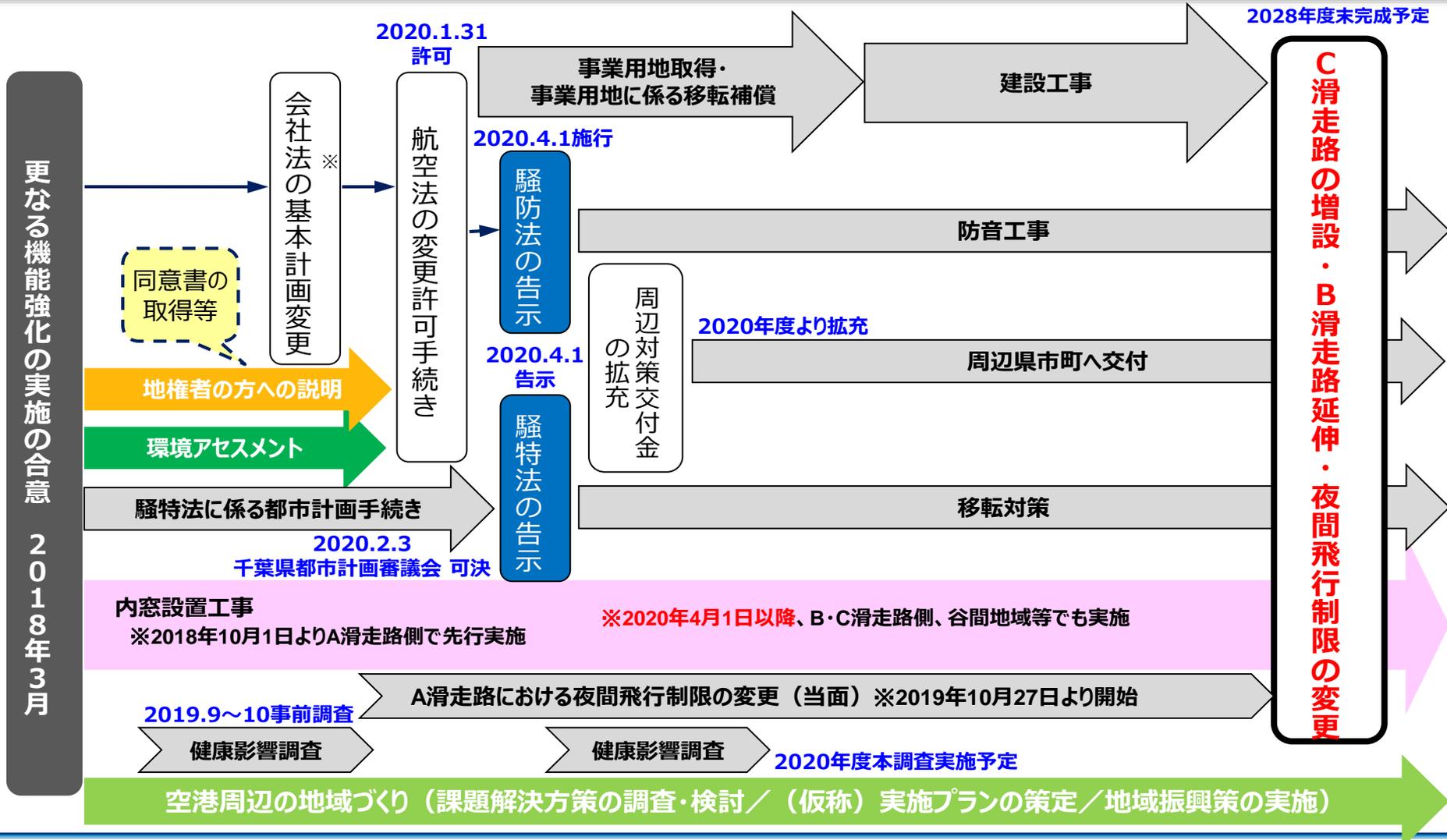


Narita Airport

Connecting Japan to the World

更なる機能強化の今後のスケジュール

- 更なる機能強化の今後のスケジュールは以下のとおり。
- 航空法の変更許可、騒防法・騒特法の告示を受け、更なる機能強化の事業着手や環境対策等を本格的に進めていく。



現地調査の開始について

- 更なる機能強化の整備計画の具体化に向けて、空港敷地拡張区域で以下の現地調査を順次開始する。

埋蔵文化財調査

- 文化財保護法に基づき、埋蔵文化財調査を実施。調査は、NAA所有地から順次実施。



用地取得に向けた現地調査

- 用地取得に向け、筆ごとに土地を測量し、立会による境界確定を経て、筆ごとの地積を確定。



土地調査及び測量調査

- 整備計画の具体化に向けて、設計作業の一環として土地調査、測量調査を実施。



環境保全措置

- 調査の進捗等に併せ、猛禽類の営巣環境の整備や重要な植物の移植などの対策を実施。



航空機騒音健康影響調査のスケジュール

- 健康影響調査については、2018年3月の四者協議会の確認書において、A滑走路の発着時間の変更に伴う地域住民の健康に与える影響の調査を実施することとしている。
- 2019年5月、実施にあたり、専門的知見及び公平性確保の観点から、学識経験者等で構成する委員会を設置。
- 2019年6月3日に第1回委員会を開催し、来年度以降に予定している本調査に先立ち、前回調査（2014年7月～9月実施）時からの経年変化等の検証を目的とした事前調査を実施。
- 本調査については、事前調査結果を踏まえ、今後、委員会で具体的な実施時期、調査項目及び調査方法等を審議のうえ、実施予定。2021年度中に、最終的な健康影響調査の結果をとりまとめる予定。

2019年度

【2019年5月】
航空機騒音健康影響調査委員会設立

- 専門的知見及び公平性確保の観点から、学識経験者等で構成する委員会を設置

【2019年9月～10月】
航空機騒音健康影響調査
(事前調査)

- 本調査に先立ち、前回調査時の有効回答者（約3,700名）を対象に、前回調査時からの経年変化等の検証を目的とした事前調査を実施。

2020年度

【2020年度中（予定）】
航空機騒音健康影響調査
(本調査)

- 委員会で具体的な実施時期、調査項目及び調査方法等を審議予定

2021年度

【2021年度中（予定）】
航空機騒音健康影響調査とりまとめ

参考資料

【参考】環境対策の充実

防音工事の充実（騒防法第1種区域内）

ペアガラスの助成
(2020年3月26日時点で18件)

- 防音工事において標準仕様に準ずる仕様として、**市販防音サッシ及びペアガラスの合計額に対して、特殊防音サッシ及び単板ガラス代金の合計額を超えない範囲内で助成。**



世帯の人数による
防音工事限度額の柔軟化
(2020年3月26日時点で0件)

- 一定の広さを有し複数の部屋がある一人世帯の住宅については、同居の有無にかかわらず子や孫がおられる場合、**二世帯とみなすことにより、防音工事の限度額を引き上げ。**



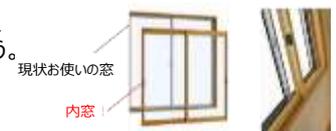
浴室、洗面所、トイレの外郭防音化
(2020年3月26日時点で24件)

- 浴室・洗面所・トイレ等についても、外郭の防音工事をする方が室内の建具を防音化するよりも**合理的と認められる場合には、限度額の範囲内で外郭の防音工事を可能とする。**

深夜早朝対策（内窓、低騒音機の限定）

内窓の設置

- 既存の防音工事と併せて、**35～40dB程度の防音効果が見込まれる、内窓を寝室に設置。**
- 加えて、壁・天井の工事が実施されてない場合は、一定の限度額の範囲内で補完工事も行う。
- 対象範囲は、**騒特法航空機騒音障害防止地区内（Lden62dB内）及び、A滑走路の防止地区とB滑走路又はC滑走路の防止地区に挟まれた、いわゆる谷間地域**を対象。



進捗状況 (2020年3月26日時点)

進捗状況 (2020年3月26日時点)	成田市	芝山町	横芝光町	山武市	合計
対象数	498件	233件	120件	23件	874件
申請数	141件	42件	22件	4件	209件

低騒音機の限定

- 運用時間を延長することとなる**5時台及び23時以降の時間帯に運航する航空機については、低騒音機(※)に限定。**
※成田航空機騒音インデックスA (B787、B747-8、A380、A320等)、B (B777、B767等) 及びC (B737等) に適合する航空機

周辺対策交付金の充実

- 発着回数50万回を前提とした算定方法に改め、**交付総額を現在の約1.5倍（約60億円）まで増額。**
- 各市町の財政力指数等を勘案し、交付金の一部を騒音下の市町に対して「**地域振興枠**」として優先配分し、これまで対象外としてきた**教育や医療、福祉といった目的にも活用。**
- 夜間飛行制限変更の先行実施を踏まえ、A滑走路側の騒音下の市町に対し、交付金の中から環境対策に充てることを目的とする「**A滑走路特別加算金**」を交付する。
(C滑走路供用までの時限措置)



【成田空港が目指す空港像】 発着回数50万回時イメージ

首都圏空港の発着回数は年間100万回となり、世界トップレベルへ
(成田50万回・羽田50万回)

航空機発着回数

50万回

航空旅客数

7,500万人

貨物量

300万トン

時間値

98回

LCC就航割合

50%超

空港内従業員数

7万人

※現時点のイメージであり、具体的な整備計画は今後の需要動向や社会情勢等を踏まえながら今後検討。

我が国及び首都圏の表玄関として、成田空港の競争力を可能な限り高め、
増大する首都圏航空需要に適切に対応することにより、
名実ともに日本のゲートウェイ、かつ、アジアのリーディングエアポートとしての
地位を確立



Narita Airport

Connecting Japan to the World